

2025年度

ニチキッズみずえ小規模保育園 自己評価総括表

地域社会における保育施設として、その運営や保育内容について、自らの保育実践を振り返り、自己評価を行いましたので、その結果を以下の通り公表いたします。

また、本自己評価の結果を踏まえ、今後も更なる専門性の向上や保育実践の改善に努め、より一層質の高い保育の実践を目指してまいります。

評価方法		
保育士等（全職員）の自己評価	評価期間	2026年1月6日（火）～2月10日（火）
	実施方法	全職員に自己評価について趣旨を説明し自己評価を実施した。
保育施設の評価	評価日	2026年2月20日（金）
	実施方法	自己評価、園の課題を職員全体で共有し振り返り、保育施設の課題を明確にし、次年度に向けて改善策を検討した。

項目ごとの評価	
保育理念	保育理念に基づき、子どもも大人もワクワクしながら夢中になって遊びこめるよう安定した環境を整え、その中で自分をありのまま表現できるよう発達段階に応じ、見通しをもった丁寧な保育を職員全体で取り組んだ。
子どもの発達援助	子どもをまんやかに、できるまでの過程を大切にし、一人ひとりの発達や思いを受け止め、必要以上の介助や関わりではなく自分で考え行動できるように待つこと、そして必要な時に支え、見守る丁寧な保育を心がけた。困り感が見られる場面では、その子どもの背景や環境を踏まえて関わり方を見直し、継続的に支え、安心して挑戦できる姿に繋げるように努めた。
保護者に対する支援	保護者の思いに寄り添い、送迎時や懇談時に子どもの気になる姿が見られた時には、互いに情報共有し、一緒に見守りながらサポートを行うことが出来た。その子どもにとって最善な関わり方を共に考え、より良い支援を見出しながら、継続して支えることに努め、子どもの成長と一緒に喜び、共感し、保護者自身の子育てへの自信に繋げるように努めた。
保育を支える組織的基盤	ミーティングや職員会議を通して、日々の保育の中での課題や気づきを職員間で共有し改善へ向けて方向性を同じにすることができ、子ども一人ひとりの発達や状況にあった関わり方や環境作りが出来た。また園内研修や外部研修では、研修で得た知識や方法を保育に取り入れることで保育の質の向上へ繋げた。

総評
保育理念や保育目標を土台に0歳児～2歳児の子ども一人ひとりの成長や発達段階に寄り添い、できるまでの過程を大切にしながら挑戦する姿を見守ることができた。子どもが頑張ったことを一緒に喜び、その成功体験が積み重なることで自信に繋げることができるよう継続的な支援を行なった。また、気になる姿や困り感に対しては、保護者と連携しながら気持ちに寄り添い、子どもの小さな変化や気づきを伝えることで保護者も子育てに自信が持てるように努めた。今後も一人ひとりの育ちに寄り添い、子どもも大人もワクワク楽しむ保育に職員全体で取り組んでいきたい。